

令和2年度 和泉葛城山ブナ林事業計画

公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会

1 計画の趣旨

令和2年度は、次期長期計画となる「和泉葛城山ブナ林10ヵ年計画」の作成に重点的に取り組みつつ、あわせて、コアゾーン内の種子調査と生育環境調査及びバッファゾーン植栽地での各種調査を行う。

2 長期計画「和泉葛城山ブナ林10ヵ年計画」策定業務

平成30年度から取り組んできたブナ林の現状把握、特に天然記念物区域（コアゾーン）のブナの生育状況、森林植生の現状把握の内容を踏まえ、令和3年度からの10ヵ年を計画年度とする長期計画「和泉葛城山ブナ林10ヵ年計画」の策定を行い冊子に取りまとめ、関係各所に配布する。計画策定にあたっては、コアゾーンに加え、多くの市民の協力を得ながら植樹や調査といった保全活動を行ってきたバッファゾーンにも重点を置き、「和泉葛城山ブナ林全体」を広い視野で検討することに留意する。

①スケジュール概略

令和2年6月～7月頃	記載内容議論（ワーキンググループ）
令和2年8月頃	骨子の確認（保護増殖検討委員会）
令和2年10月頃	五箇荘の意見聴取 概要の確認（ワーキンググループ）
令和2年11月～1月頃	計画とりまとめ案 作成・確認 （ワーキンググループ・保護増殖検討委員会）
令和3年1月～3月上旬	計画最終案 とりまとめ、確定（保護増殖検討委員会）
令和3年3月下旬	冊子納品・配布

②冊子の主な配布先

コアゾーン土地所有者 高麗神社（五ヶ庄）、和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会委員、文化庁、大阪府、貝塚市、岸和田市、地元博物館・自然保護NPOなど

③作成部数

300冊（A4版30ページ程度）

3 調査業務

3-1 コアゾーン

（1）種子調査

令和元年度と同じ4プロットで、各プロットにつき種子トラップを5基設置し、コアゾーン内の種子の生産、種子病原菌の状況、散布の状況および種子健全度の経年変化を把握する

ための種子採取調査を行う。採取した種子は苗を作るなど有効活用を図る。また、種子豊凶の判定を行うため、花芽・結実の観察結果を反映していく。

(2) 生育環境調査

コアゾーン内の生育環境の通年調査を行うため、令和元年度に設置した気象観測器(全2カ所)を継続して通年測定を行い、継続して長期間の森林生育環境データを取得する。また、データ分析手法を確立する。

3-2 バッファゾーン

(1) 植栽地生育確認

過去に実施された植栽地の稚樹生育調査を、前年度に行ったブナ全数調査の結果を参考に、個体識別が可能な調査地点や個体を選定し、胸高直径、樹高、位置などの計測を行う。

(2) 生育環境調査

平成29年度に設置した気象観測器(全7カ所)により通年測定を行い、将来にわたり継続して長期間の森林生育環境データを取得する。

(3) IT技術活用

森林調査の機能的、効率的な新技術として、ドローンによる空中撮影、画像解析を活用した植生調査の実用化を継続して行い、精度向上を図る。

3-3 専門機関との連携

今年度も引き続き、公立大学法人大阪大阪府立大学や大阪府立環境農林水産総合研究所等と連携した調査業務を実施する。また、地元の博物館などにも学術的な指導・援助を得ることにより、保護増殖活動を促進させる。

4 保護・増殖活動

(1) 植栽地の生育環境保全

バッファゾーン植栽地において、植栽したブナの生育環境を改善するため枝払い、刈払い、清掃などの維持管理を行う。

(2) 稚苗養成

バッファゾーンで確認された実生、稚樹について、生育状況を把握する。また、コアゾーンで行う種子調査で得られた健全種子について、保護増殖検討委員会の意見をもとに危険分散により複数個所での育苗を試みる。

5 環境学習・体験学習・協働の推進

(1) 推進体制

これまでの取り組みを通して得た、地域の博物館やNPO、ボランティア団体との協働や連携をさらに推進するとともに、企業CSRの受け入れ等を積極的に行い、調査業務や保護・増殖活動、普及啓発活動等を推進する体制づくりに取り組む。

(2) 普及啓発活動の継続実施

長年、実施されてきた保護増殖事業の成果を、広く市民に普及啓発し、ブナ林保全への参画を促すため、年に1回のシンポジウムやハイキングなどの開催を継続するとともに、地元の学校の野外学習の受け入れ等を推進する。

6 和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会の開催

令和2年度は、次期長期計画の策定に向け、今後の保護増殖の取り組みをより具体化することをめざして、3回程度の保護増殖検討委員会と、適宜のワーキンググループの開催を予定する。

以上